

湘南学園だより

No.117

発行
湘南学園
学園部
だより
編集

湘学流 教育術

学校法人湘南学園 理事長 辻 彰彦

創立80周年記念事業の一つである小学校改築工事が完了し、無事に竣工式を行いました。ひとえに近隣住民の皆様の温かいご支援とご協力、関係者の方々のご努力の賜物と、心から感謝申し上げます。

最新の耐震設計のもと、最高の教育環境が整ったと感じております。

伊勢神宮には飛鳥の時代より継承されている、式年遷宮があり、約1300年にわたって行われています。これは、20年に一度、正殿を含む社殿の建替えを行うものです。なぜ定期的に遷宮を行うのでしょうか。一説によると建築技術の伝承であると推測されてお

ます。宮大工がこの弥生建築技法を習得し、20年後に若手に伝える事ができるからなのです。

小学校は20年後に建替えをする必要はありませんが、『20年』という区切りで考えるならば、創立80年は4回目の節目と考えることができます。

また次の『20年』となる100周年までに、この小学校から2000人を越える卒業生を送り出すこととなります。ようするに『20年』という区切りで考えた場合には、2000人を超える子どもたちに様々なことを伝え、彼らの人生に責任をもった教育をしなければならぬということです。

その実現に今まで以上に「建学の精神」を大切にしていく必要があると考えます。

個性豊かにして身体健全

気品高く

社会の進歩に貢献できる

明朗有為な実力のある

人間の育成

これは、創立以来、そして今後一貫した「建学の精神」であり、この建学の精神が目指すところは、『強い人間力の育成』です。子どもたちには例外なく、すばらしい個性や才能があります。それらを発見し、その個性や才能を伸ばし、子どもたちにとって必要なことを必要な時期に修得させてあげる、大切なことを伝えていく、ということこそ学校の存在価値であると考えます。

湘南学園ではこれらの「人間力」を育成することを教育理念として掲げ、教師と保護者の共同経営の特性を活かし、教育術の継承を行っていきます。



〈完成した小学校校舎〉

熱のこもった実践報告と分散会討論

実り多かつた第2回全学教研



2回目を迎えた全学教研は、8月30日午後、「自分と世界のつながりを実感し、人とのつながりが広がる学び」をメインテーマにして、中高ホールで幼・小・中高の教員等約106名が参加して行われました。

この全学教研は、湘南学園ならではの幼児から青年期にかけての人間の成長・発達が見通せる総合学園らしい教育研究と全学的な交流が行なわれ、「すぐれた実践を共有できた」、「総合学園の一端を担っていることに誇り」、「狭い視野になっていた自分に気づいた」等の感想が寄せられました。

今回は、4本のレポート発表を行うはじめの全体会と小グループでその討論を行う分散会、さらに共同研究者からの講評等をいただく終わりの全体会という形式で行われました。



開会挨拶で仲本学園長は、「全学教研は総合学園として発展していく上でのひとつとも重要な環である」等4つの意義を明らかにし、全学教研のテーマ「つながり」のとり

え方、分散会という新しい形式を取り入れたこと等を報告しました。

レポート紹介

1. 「野菜づくりの活動を通して」

幼稚園 中川貴義先生



5才児が、野菜づくりを通して、実苗が折れたり、実がカラスに食べられてしまう事件を通して、自分の感じた疑問をそれまでの経験を引き出し、また、友達との経験をつなぎあわせながら、試行錯誤しつつ、時間をかけ自分の思考を広げていく様子が報告されました。

2. 「米粉を使って新商品開発」

—5年生、総合学習の実践—
小学校 中許竜宏先生

日本の食料自給率を上げる方法を考える過程で、「米粉」という食材に出合い、地域ですべて国産の原料でパンを作っているお店のご主人の協力を得て、5年生がお店



とコラボで「米粉」を原料とした新商品の開発に挑戦、商品にならないと突き返されるような挫折も経験しながら、自ら調べ、考え、完成した新商品をお店で販売してもらった報告。

「特活の取組で、人と地域を再発見」

中高 山田美奈都先生



中学2年の特活で「身近な地域とそこに生きる人々から学ぶ」ことを目的にして、C組では「地産地消」をテーマに、湘南地域の農家を訪問し、農作業体験し、話を聞き、さらには地元食材を使うレストラン探検にも行く。農作業は嫌がるのではないかとの予測に反して、生徒は実に一生懸命にまた、楽しそうに作業に取り組み、普段の教室では見られない生き生きとした生徒達の表情がとても新鮮であった。

「体育祭を通して、大きく変わったリーダーたち」

中高 植田卓真先生

高校2年生は、4月から約1ヶ月



の中で、中学 1 年から高校 2 年までの 5 色に分かれた色別の生徒各 200 人をまとめ、体育祭で行うアトラクションの構成とその指導を行う。クラスの中に内気な生徒がいたが、皆に押されてリーダーになり、不安や葛藤をくぐりながら体育祭の成功を見事に勝ち取っていく奮闘の軌跡を追った報告。

講評 (要旨)

共同研究者 佐藤 隆先生



○幼小中高のある学校で全パート通じての研究会は全国的に見てもほとんどないと思う。

○湘南学園は自由な教育実践をしている学園であり、もっと子どもたちの成長ぶりを外に発信していただきたい。

○五感を使うということは「わかる」ということにとって重要。

赤色を見たことない人に「赤とは」と教え込んでも本当のことは理解できない。目で「赤色を見る」

ということとは知識のスタートであり、ある物と自分との関係を豊かなイメージとしてふくらませることができるようになるということではないか。

○大田堯さんは「問いと答えの間」ということを言っている。

問いに対してすぐ答えが出れば、教師にとっては楽である。しかし、問いに対して、じっくり考え、ゆっくり答えを出す（効率が悪い）、つまり、間違いを含んだいろいろな答えがたくさん出た方がいいのではないか。

「積極的に意見が交わされた」と大好評だった分散会



「教育環境の充実と活動内容の活性化」

P T A 会長 浦田智禎

P T A 会長に選任されて、早くも半年が過ぎようとしています。

学園では、小学校の竣工式を終え、9 月から児童たちの活気ある学校生活がスタートしました。教育環境整備が、児童・生徒に与える影響が大きいことはよく報告されています。あらためて積極的に整備を進めていく学園の強い姿勢に感謝いたします。

P T A として今年度は、劇的な変化の年と捉えています。80 周年記念事業への活動協力、カフェテリア建設に伴う松が岡邸からの引越と解体など P T A を取り巻く環境の変化は極めて大きいものがあります。この状況の中で、P T A の諸活動を保証していくことは非常に困難を極めます。つきましては、保護者の皆様の深いご理解とご協力をいただけたらと思います。

さて、P T A 主催の今年度の新規事業として、「ヤングアメリカンズ」開催に向け準備活動に取りかかっております。

「ヤングアメリカンズ」とは？
1992 年、アメリカで始まっ

た音楽を通した教育活動「ミュージックアウトリーチ」出張授業は、全米 45 州に拡大し、現在 21 カ国でツアーを実施しています。日本では、N P O 法人じぶん自由クラブが「ジャパンプツアー」を運営しています。多くのツアーでは、企業等との共催での実施をしています。P T A では、学園単独開催を実施し、園児には初日にアメリカの若き指導者からのワークショップを経験してもらい、生徒たちは 3 日間の歌と踊りのワークショップを経て彼らと共にショーの舞台を踏みます。この事業が、学園生の自己を解き放ち、再構築し自己理解と相互理解を深める場となればと考えております。学園ホームページの挨拶にも触れておりますが、「学園家族」として相互の信頼関係を強固なものとするためにも、個々の「経験値」を深め、心豊かな人間形成の一助となればと期待しています。3 月 12 日（火）から 14 日（木）に実施しますが、詳細につきましては、決定次第ご案内させていただきます。

創立80周年まであと1年

80周年記念館の基本設計固まる

80周年記念事業として期待の高まる「80周年記念館」のイメージがほぼ固まりました。

「80周年記念館」は、一階平屋建てで建坪530㎡、216席のカフェテリア（食堂）・厨房と同窓会室、それにPTA・同窓会・後援会等の共用スペースからなります。

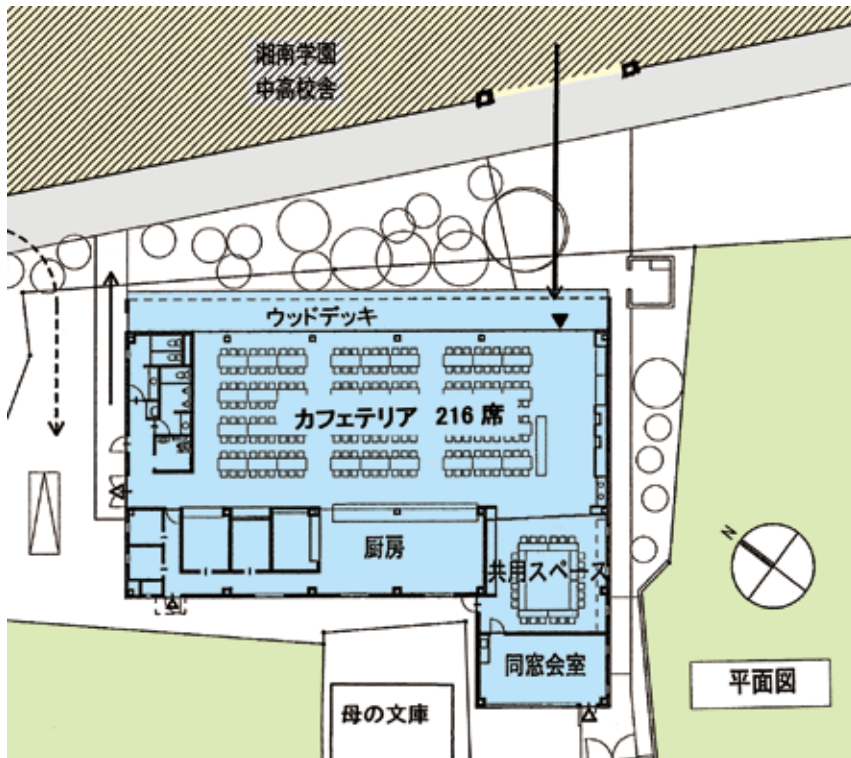
この「基本設計」作成が洋建築企画（株）によってすすめられ、実行委員会に参加する各団体からのヒアリングを行い、要望を可能な限り盛りこんだものが9月8日の理事会で決定しました。（下図）。

建設予定地は中高エリアの松ヶ岡邸とプレハブ棟を解体した跡地で、解体工事は中高等学校祭終了後の10月中旬から始める予定です。カフェテリアには、中学校舎一階テラス部にできる新しい通路を通じて渡れるようになります。

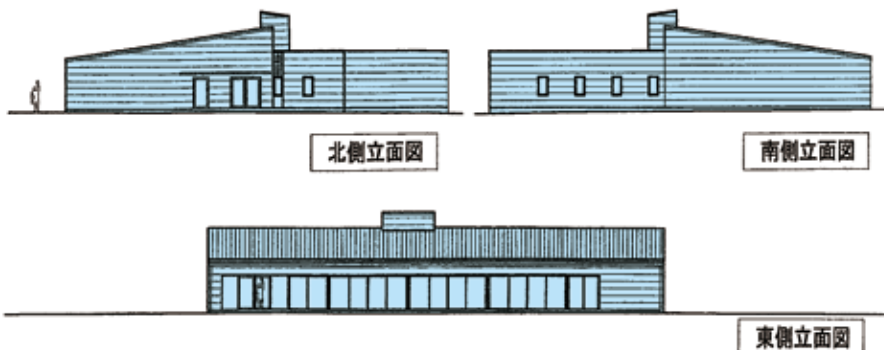
今後、「基本設計」をもとに、

細部の調整を行いながら「実施設計」

計」を完成した後、工事業者を決定し、年末から年始にかけて建設工事が始まる予定です。



80 周年記念館



創立八十周年記念事業 小学校新校舎完成

チーム湘南学園の力を結集

湘南学園小学校 校長 斉木 修

九月一日始業式、朝から子どもたちの歓声が響き渡りました。

「たいいくかんでドッチボールをしたのがたのしかったです。いつもこのがつこうでばんきょうできるとおもうとゆめみたいです。」

(二年 ひなげし)

「校門を入った時、第一印象は大学だと思いました。2Fに行く階段が大学みたいだったからです。初日から今も迷子だけど、楽しい迷子だと思っています。」

(5年 あしがら)

新しい体育館での初めての始業式は、子どもたち、教職員の喜びと、希望に溢れたものとなりました。

新校舎三つのルーツ

新校舎の誕生は、たんに一私立小学校の新校舎であることに留まらない、教育的文化財としての意

義を持つていると思います。それを三つのルーツとして簡単に記したいと思います。

① 一九八〇年代に福島県三春町

で、地方からの教育改革運動が起きました。この改革運動が注目されたのは、学校建築のあり方をも対象としていたことです。三春町では子ども目線を大切にした斬新な校舎が作られました。全国各地から三春町の学校建築見学が行われ、その後の全国の学校建築に大きな影響を与えました。その中心にいたのが、本校の設計を監修された長澤悟先生(現教育環境研究所)でした。本校のルーツの一つは、こうした地方からの教育改革運動です。

②

本校の建設にあたっては、北欧、とりわけフィンランドの影響を強く受けています。つ

まり国際的な教育改革運動が二つ目のルーツです。

③

三つ目のルーツは、湘南の自然、文化、歴史の伝統をしっかりと受け継いでいることです。もちろんその中には湘南学園八十年の伝統も含まれています。Rの形を多様に取り入れた基本デザインは、湘南の海にちなんで貝の形からとられています。

チーム湘南学園の力の結集

〈多様な対話を通じて〉

この校舎が出来上がった背景として重要なことは、日本設計と清水建設、そして私たち湘南学園側との間に非常に緊密なコミュニケーションがあったことです。

例えばメディアセンターなどで子どもたちが利用する椅子ひとつとっても、実際に子どもたちが座り、色使いについても意見を出しています。設計者のコンセプトと教職員の対話も早い時期から何度も積み上げられてきました。また各地の先進的な学校建築も前述の長澤先生のご案内で見ることができました。竣工直前まで現場教職

員とのすりあわせが何度も行われ、設計上の微調整が続けられました。

〈感嘆に値する建設委員会の努力〉

新校舎建設にあたって、一貫してその中心になったのが、建設担当理事、教職員が参加する建設委員会でした。小学校校長として、委員長をはじめ、各委員の皆様への献身的とも言ってよいご努力に頭の下がる思いでした。これほどまで、民主的かつ透明性の高い委員会運営が貫かれたことは、まさにチーム湘南学園としての誇りです。

また地域の皆様のご協力については、改めて深く感謝するところです。騒音、土ぼこりなど、様々なご迷惑をおかけしましたが、先日とりおこなわれた竣工式にも、多数の方々に参加いただきました。今後とも地域に信頼され、地域と共に発展する学校を目指してまいります。

最後になりましたが、日本設計並びに清水建設の皆様には深く感謝いたします。まさに「子どもたちに誇れる」お仕事をしてくださりました。

小学校全施設完成

二期工事を終えて

小学校教頭 鈴木 努

この八月末、小学校校舎の全ての施設が完成しました。思えば、約五年半前の小学校校舎基本構想検討から始まり、児童・保護者・教職員の様々な議論・検討・研究を積み重ね、ようやく二年半前の校舎着工となり、この八月末設計・施工会社から学校への引き渡しとなりました。

この工事期間、二度の六年生卒業、保護者や先生方の入れ替わりなど、歳月の流れを強く感じています。当初から建設にかかわってきた人間の一人として述べていただければ、この期間、振り返れば短かったようで、長かったような大変複雑な気持ちしが現在交差しています。

もちろん、着工時から全施設完成まで二年半がかかっています。が、それ以前の約三年前より建設準備委員会を立ち上げ、建設担当理事・事務局・小学校建設担当者などで検討を続けてきました。さらに着工後も、事務局・設計・建設・小学校担当者参加での週一回の建設定例会議、月一回の学園長・建設担当理事・事務局・設計・建設・小学校管理職、総務、教務などの参加で建設総合定例会議を行って

いました。内容は、工事の進行状況や近隣状況、設計からの管理状況工事や設計課題、学校行事日程や各パートの要望などの取りまとめなど、決して少なくない時間を多くの方々に割いていただき、学園全体及び建設全体の調整作業を進めてまいりました。

特にご自分のお仕事をお持ちの保護者理事の方々と日常業務外での事務局職員のお力をお借りして、何とか湘南学園にふさわしい小学校校舎を完成させることができました。

もちろん、地域近隣の方々、幼稚園園児、中高生徒・各パート保護者方々及び教職員の方々、たくさんの方に多大なご迷惑とご協力をいただかなければ、完成することとはなかったとを、この場を借りてお礼を申し上げます

△体育館棟屋上よりペントハウス▽



さて、前置きが長くなりましたが、二期工事の概要と各新教室などの紹介をさせていただきます。一期工事では、各クラス教室を中

心に工事が進められました。二期工事では、体育館棟を中心に建設が行われました。

特徴としては、メディアセンタを校舎の中心置き、どの教室からでもメディアに來られ、一体型の校舎となっています。空に向かって開かれた小学校ホール屋上の五コース二十五メートルプール、旧ホールの一・五倍の広さになった新小ホール。

△新小ホール▽



音と海イメージを取り入れた波形の天井がある音楽室。ミニコンサートができる、充分なスペースがあります。また、練習室や楽器庫もあり、機能的な側面もあります。

△新音楽室▽



そして、デザインに懲りながらも、機能性や児童の安全性に配慮した仕様となっています。

新たにできた絵画室と造形室。天井の空間と部屋の強度をとるための梁、図工材料収納や作品の保管に利用される小部屋など、これも、デザイン性と機能性が追求されています。

△図工科絵画室▽



また、それぞれの教室前には、広々とした廊下があり、図工作品などの展示スペースとなっています。また、採光や通風も配慮され自然の光や風が通り過ぎていく心地よさ感じられます。

子どもたちは、朝の登校時、各方面より正門か、一本通り側の門から入り、ちょうど専科教室棟下を通り過ぎ、メディアセンター横の吹き抜けの下から、昇降口へ到着します。

一年生から三年生までは、一階の昇降口、四年生から六年生は、外階段を上り、二階昇降口を利用して各教室に向かいます。

一年生から三年生玄関前には、理科テラス上にある太陽光パネル発電のモニターがあり、常時、発電の様子が視覚的に見ることがができます。



△図工科造形室▽



△体育館棟プール▽



△小学校昇降口▽

そして、以前は、遊具とPTA会館あった場所には、(現在の一年生教室とその前・二年生教室前)生活科の畑スペース、井戸水を利用した田んぼと小川、ビオトープなど、「学習の森」と呼んでいる自然のスペースを作りました。それぞれの季節に咲く花や食べることのできる木の实など、子どもたちが四季を感じられる場になればと考えています。

しばらくは、児童と教員の共同作業となりますが、植栽も含め、豊かな自然環境が作り出せるものと思っています。



△新校舎▽



△小学校グラウンド▽

最後に、一周一〇〇メートルと直線にして七〇メートルのグラウンド、校舎まわりのインターロッキングなど、広がりのある空間が生まれました。光と風、緑と水湘南の名に恥じないすばらしい施設が完成しました。



△学習の森▽

子供達の瞳の輝き「さくらわくわくデー」(宿泊保育)より

「いっぱい遊びたい!」「スイカ割りしようよ!」「お昼ごはんは流しそうめんがいいな。」「流しそうめん食べたことあるよ。外に泥んこの時に使う竹があるよ。きれいに洗えば大丈夫だよ。」「お風呂に入りたい!」「石を積んで、露天風呂を造るのはどう?」「いいね!」そんな楽しそうな子供達の話し合いが始まったのは、五月二日のわくわくデーに向けていよいよ年長組の子供達が動き始めました。



幼稚園の行事は、当日だけを楽しむイベントではなく、そこに至るまでの過程を大切にして、その経験を大きな力にしていって欲しいと考えています。ですから、どんなことをしたいのか、そのためにどんな準備をしたらいいのか、みんなで話し合いを重ねながら、子供達が主体となって進めていきます。わくわくデーの内容はこうして子供達の思いを盛り込みながら決まっていきました。

夜ごはんは、ほぼ全員一致でカレーライスに決定!必要な物も自分たちで買いに行くことに決めました。事前に幼稚園銀行でもらったお金を持って、八百屋や商店に買いに行きました。「これ、くださいな。」「いくらですか?」「ありがとうございます。」「レジの前に立ってお金を渡し、レシートとお釣りをもらう姿はちよつぱり照れながらも嬉しそうで、とても誇らしげでした。また暑さの中、重たいお米やペットボトルなどが入ったリュックを背負い幼稚園に戻ると年少組や年中組の子供達、先生や仲間へ労いの声を掛けてもらい、自分の役割を果たした一人ひとりの顔は、満足感と喜びに満ちていました。



みんなで買い揃えた品物は、幼稚園の玄関に入ってすぐの大きなテーブルに置いて、幼稚園のみんなが目にした、手に取ったりできるようにしました。近くにあったばかりを見つけると、何が一番重いかを量っている子もいました。

年長組担任 姫野 貴美子

た。年少組や年中組の子供達も並べてある野菜やカレーラーを見て興味津々です。「さくらさん(年長組)カレーライス作るんだって。いいなあ。」「お泊りするんだって!」「すごいな」などという声が聞こえてくると、得意気にわくわくデーの話をしたり、どんなことをするのか教えてあげたりする姿もあり、子供達の気持ちはだんだんと、膨らんでいきました。



わくわくデー当日に必要な係も自分達で考えました。米とぎ係・夜ごはん係・お布団係・お風呂係・パトロール係に分かれ、どんなこ

とをするのか、当日に向けて練習をしたり、使う物を揃えたりして準備を進めていきました。米とぎ係は、ままごとで使う炊飯器でイメージを膨らませ、当日は時間になると先生達に声を掛けられなくても自分達で集まり、みんなで食べる七キロもの米を丁寧に研ぎました。夜ごはん係は、紙に絵を描いてランチョンマットを作ったり、食事の配膳をしたり、「いらっしやいませ」のポーズを考えて、レストランにみんなを案内しました。お布団係は、運動用のマットでシートを敷く練習をして、当日はアリーナ棟の大会議室に四〇組の布団を、二人一組になって力を合わせて敷きつめました。お風呂係は『お風呂や』と看板を作り、プールにお湯を張って、次々と来るお客様にシャワーやタオル置き場の案内をしたり、湯加減を聞いたりしました。パトロール係は事前に本鶴沼駅前交番のおまわりさんと、学園の警備員さんに見回りのお願いをして、当日の夜は、懐中電灯を持って幼稚園内を見回り戸締りもしました。子供達が自分でやろうと決めた係なので、どの子も最後まで一生懸命に取り組んでいました。自分のしたことが友達のために役立つ喜びが自信へとつながり、子供達一人ひとりの顔がよりいっそう輝いていました。



「自分達で時間を決めて過ごしたい!」「いつもはできないことをやってみたい!」そんな意見から、一日目のお昼のお弁当は、好きな時間に好きな場所で食べることになりました。園庭にゴザを運

んでピクニックのように大勢で食べたり、滑り台の上で食べたり、年少の頃の自分のクラスで思い出に浸りながら食べたり、また屋上からの景色を眺めながら食べたりと、他学年のいない年長組だけの幼稚園を思う存分、満喫していました。中には、二人の友達と食べる約束をして、一人とは十時半に半分だけお弁当を食べ、もう一人とは十二時に残しておいた半分のお弁当を食べる子もいて、大人では考えつかないようなことを、自分で考えて行っている姿を見て、とても関心しました。



最初のうちは、泊ることを嫌がっていた子も、みんなと話し合いを進めていく過程の中で、「泊ってみようかな・・・」と気持ちが変わっていききました。わくわく

デーを迎えるまでに、一人ひとりが期待を膨らませながら、着実に成長していきました。「何して遊ぶ?」「どこでお弁当食べようか?」「誰か手伝って!」「一緒に寝ようね。」と、わくわくドキドキしながら瞳を輝かせ、一晚を大切な仲間と過ごした子供達の顔が次の日、自信に満ち溢れていたことは言うまでもありません。これからも、子供達の瞳が輝くような、わくわくドキドキがいっぱいの保育を進めていきたいと思えます。

最後に、わくわくデーを行うにあたり、保護者の方々のご理解やご協力、学園に携わる多くの方や地域の方々にも、温かな見守りと支えていただいたことに、深く感謝申し上げます。



「いま、考えていること」

今年度から企画主任となりました。よろしくお願いいたします。卒業生などには、「イベントの企画をするのですか？」などといわれることもあるのですが、少々誤解があるようです。企画主任とは、簡単にいうと、学校運営に関する諸活動の企画・立案等のことを行う「企画委員会」を代表する立場です。ここでは、生徒諸君が「希望する進路に進めること」「社会に有為な人材となる土台を固めること」を実現すべく、企画主任としてどう考えているのかということとを述べます。

さて、私は、今春卒業した学年に6年間関わってきましたが、昨年度は「しっかりと目標を持ち、自分の意志で勉強する」生徒たちが、大学受験において好結果を次々とだしていく様を目の当たりにしました。彼らは、「何となく受験する」とか「勉強をやらされている」などというのは次元の違う迫力に溢れていました。その多くは、「未来のなりたい自分」をイメージしながら、大学でもしっかりと勉強に取り組んでいるようです。

そのような生徒たちに共通することは、勉強のみならず部活動・

学校行事・特活等の様々なことに、楽しみなが、しっかりと取り組んだということ。即ち、「自主的に物事に取り組む生徒は大学受験にも強い」ということが確実にいえるのです。

このことを念頭に置き、今年度最初の教員会議において、次のことを示しました。

「今年度は、これまで様々になされてきた努力の上に、『学校全体で、自主的に物事に取り組む生徒の育成をはかるシステムを形成する』という明確な目標を立て、目標達成に向けた実践をしていければと考えています。」

とはいえ、急激な社会の変化に対応できる人材を育成するには、「すでに学校だけで教育のできる時代ではない」という指摘もあります。これは、学校の責任を放棄するというのではなく、学校を核として様々な主体が「つながり」を持ち、生徒の成長に寄与していくというイメージです。そして、そのことを象徴するものとして『共創』という言葉掲げたいと思います。同じ教員会議では、次のことも示しました。

『共創』とは、『異なる背景や立場をもったものが、一体となっ

中高企画主任 吉川謙太郎

た場を形成し、新たな価値を創造していくこと』であり、『学校と地域』、『学校と企業』などの関係のなかで使用される言葉です。また、学校内で『共に創る』という意味も持たせえます。これをキーワードとして、諸活動の企画立案・決定・実施がなされるようにしていきたいと考えます。」

さて、湘南学園では、教科学習や特活などでの素晴らしい取り組みがたくさんあります。しかし、取り組み相互のつながりがあまりみられず、教育効果を限定しているという問題もあると思っています。そのような中で、目標達成のための切り口として、やはり教員会議で次のようなことも示しました。

「湘南学園の教育諸活動を効果的に結びつけ、教育効果の強化をはかる。そのなかで、生徒の学習意欲を高める工夫を凝らし（興味を持てるものを発見できるように『仕掛け』を多く設定し）、「自ら学ぶ意欲を持つ生徒」を育成できる体制を構築する。その際、学校の存立する地域の資源を十分に活かす、湘南学園の独自性を追求できるようにする。」

具体的には、まずは特活の再構

成をはかり、教科学習や特活などとの連携を実現し、より高い教育効果を得られるようにするべきだと考えています。その中で、社会に目を向け、興味あるものを発見できる機会が増すことで、「自ら学ぶ意欲を持つ生徒」が育っていくのだと思います。これについては、夏休み前に「特活検討委員会」が発足し、本格的な議論を始める第一歩が踏み出されたところ

です。もうひとつ強調しておきたいのが、「地域資源の活用」です。湘南学園の存立する地域は、ある人によると「キング・オブ・湘南」です。優れた景観があり、多くの著名人（作家の芥川龍之介、画家の岸田劉生、外交官の杉原千畝など枚挙にいとまがありません）がこの地を愛しました。これらの宝物ともいえる地域資源を、教育活動に活用できるようにしたいと思っています。また、防災教育の充実という観点からも、「地域とのつながり」も追求していく必要があるでしょう。

その他、いろいろと考えるところはありますが、限られた紙幅の中では到底述べきれません。ただ、「共創」という精神を根本におきながら、諸課題に取り組んでいく姿勢はとり続けていきたいと思っています。皆様のご理解ご協力をいただけたら幸いです。

この春の大学合格結果と今後の重点課題

学習進学指導主任 中泉清和

この春の大学の合格結果をご報告申し上げます。

卒業生一九三名に対して、大学（準大学も含む）に進学した生徒は一五九名でした。また、短大には一名、専門学校には四名の生徒が進学しました。したがって、全てを合わせると、現役進学率は八五・〇％ということになります。これは、例年と比べてやや高い値となっており、特に文系の進学率の上昇が顕著でありました。

この春の卒業生による合格者数の内訳を見てまいりますと、国立大学は十六名、早稲田大学の二十七名を含め、難関私立大学は六十四名、明治大学の三十五名を含め、上位私立大学は百二十名となっておりま。生徒諸君がそれぞれの志望校を目指し、大変な努力を重ねた結果であると思えます。また、医学科・獣医学科への進学も合わせて五名おり、近年言われている「文低理高」の状況の中でよく頑張ってくれました。

しかしながら、本校の目標である「上位私立大以上への進学を五十％」には、まだ届いていないことも事実です。成績中堅層の生徒たちをどのように引き上げていくかを考えることも、重要な課題です。そのために、現在、学習進学指導員会で実施・検討して

いることをご紹介申し上げます。

まず一つめは、中高六カ年を通して学習進学指導のプログラムの作成です。湘南学園では、すでに日々の補習や希望制の講習、学年ごとの進路指導など、大変旺盛な学習進学活動が行われています。しかしながら、こうした活動が学校全体のシステムとして体系化されるまでには至っておりません。そこで、六年間を二年ずつの三期に分け、それぞれの時期にどのような目標を設定し、その実現に向けて最優先となる活動が何であるかを設定していきたいと思えます。こうしたプログラムをもとに、教員一同が目標を明確に共有することで、より効果的な教育活動を行えるようにしていきたいと考えております。

二つめは、本学園の卒業生による支援の充実です。これまでも、高校二年生による大学訪問の際のキャンパスガイドや、高校三年次の特別教育活動における社会人としての講演、そして高校生を対象とした合格体験座談会など、すでに卒業生の方々は様々な形で協力をしていたいております。そこで、二年前より始めたサポーターバンクと呼ばれる協力卒業生のリストも活用しつつ、より多彩な活動を模索しているところで

す。今年度の具体的な取り組みをご紹介しますと、六月に大学一年生を八名招いて学習に関する講演会を行いました。参加した高校生たちは、食い入るように話を聞き、猛烈な勢いでメモをしておりました。講演会あとの個別質問においても長時間にわたり熱心に相談をする姿が見られました。夏休みには、合宿講習に卒業生二名が参加しました。課題学習時間において、高校生から質問を受ける役割を教員と共に担い、最後の一人が就寝に戻るまで熱心に高校生たちへ対応してくれました。参加した高校生の感想文にも、卒業生への感謝が多数述べられておりました。もう一つ、夏休みには夏期講習後の個別相談タイムを設けました。協力依頼の呼びかけに、十二名の大学生が応じてくれました。相談タイム当日には、志望する大学や学部についての質問をじっくり聞くことができ、講演会とはまた違った良さもあったのではないかと思います。このように、卒業生による在校生への支援のつながりが続くことで、来年度以降に卒業する学園生が今度は支援する側になってくれる良い循環ができあがっていくべきと考えております。

以上の二点を中心に、生徒一人ひとりが望む進路の実現に向けて、さらなる前進を図りたいと考えております。

主要大学合格実績（現役・浪人）※詳細なデータは、学園ホームページをご覧ください。

【国公立大学】

神奈川県立保健福祉大	1・0
首都大 学 東 京	2・0
東 京 大 学	2・0
東 京 海 洋 大 学	0・1
東 京 学 芸 大 学	2・0
東 京 工 業 大 学	2・0
一 橋 大 学	0・1
広 島 市 立 大 学	0・1
横 浜 国 立 大 学	2・0
横 浜 市 立 大 学	5・0

【私立大学】

早 稲 田 大 学	27・6
慶 応 義 塾 大 学	9・3
上 智 大 学	18・1
東 京 理 科 大 学	10・2
東 学 習 院 大 学	6・0
明 治 大 学	35・5
青 山 学 院 大 学	11・2
立 教 大 学	26・2
中 央 大 学	22・3
法 政 大 学	20・4

成 城 大 学	8・2
成 蹊 大 学	10・0
明 治 学 院 大 学	19・2
同 志 社 大 学	3・0

【医歯薬系大学】

医 学 系 大 学	4・3
歯 学 系 大 学	0・5
薬 学 系 大 学	17・1

この春の中学募集結果と新たな取り組み

2012年中学入試は、経済不況が続く中、大震災がおこり、津波の影響を懸念して湘南エリアへの関心が一気の下がり、厳しいスタートとなりました。広報としては説明会の回数を増やし、教員全員で行う塾訪問を再開するなど、チーム戦で募集活動に努めました。その努力もあり、神奈川県全体では私立受験者が下降をたどる中、本校では、前年比で1.15倍(929名)の総出願数、1.17倍の実受験者数となり、2年連続で上向きとなりました。神奈川県全体では、2008年度をピークに私学離れが進み、県内全体で日程・受験回数の変更にどに忙しく、午後入試も増加し入試の前倒しが進んでいます。今年度2013年度入試も、この厳しい情勢は続く予想です。

今年度スタート目指す目標

昨今、教育に対する考え方は「学歴重視」は変わりません。しかし保護者が求める「学歴」とは、単に大学進学実績ではなく、「どのような学びを6年間でできるのか」「それがこの厳しい競争社会でどのようにいかされていくのか」「具体的な方針と明確にイメージできる実践」までを含め「学歴」とみており、私学の独自性に期待しているところ です。

本校には「社会の進歩に貢献する

明朗で実力のある人間を育てる」という教育理念があり、「人格形成カリキュラム」特活「きめ細やかな学習カリキュラム」の2本柱に、小規模校ならではの柔軟性をいかした実践が展開されています。世代交代が進み、現場は若い先生方のエネルギーで溢れています。今だからこそ大切なのは「理念に基づいた教育の方向性を共有しあい実践につなげる」ことで、広報の重要な役割の一つであると考えています。

今年度広報主任を務めるにあたり、2つの目標を定める必要な改善改革に取り組んできました。

「目標1」学園の教育力を明確に、わかりやすく、内外にアピール

①校内ミニ学習会(入手した情報の共有化)

②塾訪問・メディアの作成(共有認識を大切にしたい宣伝活動)

③WEBサイトの活用(WEB説明会導入・写真で伝える学校活動などPRリニューアル)

「目標2」ふれあう機会・場面を大切にした宣伝活動

①オープンキャンパス企画を増設(夏・冬の訪問期間・ミニオープンキャンパスなど)

②塾との関係づくり強化(入学者輩出塾への塾訪問&情報提供、地元塾の新規開拓など)

中高入試広報主任 佐伯佳奈子

③全教員による塾訪問の継続&強化(訪問件数を拡大)

その他、様々な工夫をしまいいました。

6月・9月の学校説明会やオープンキャンパスでは、ふれあいを通じた「湘南学園のファンづくり」をテーマに、教職員、生徒、そしてPTA保護者のご協力も得て、当日は手づくり感溢れる企画でお客様をお迎えすることができました。

アンケートでは「アットホームでオープンな雰囲気」「挨拶が爽やかで居心地がよい」「私学の熱意が伝わった」など、安心と期待がこもったお声が沢山寄せられました。本校の活気や明るく和やかな雰囲気がお伝えできたと手応えを感じています。また親身溢れる笑顔の対応や誘導、ブーイングの丁寧な説明などは賞讃の声を集めていました。

改めてご協力をいただき感謝申し上げます。

2013年度入試を迎えるにあたって

次年度の募集要項が確定しました。日程・科目の変更はせず、継続して3年目となります。

次年度も「入試の前倒し傾向」が予測されています。昨年はA日程を中心に募集が多く集まり、C日程は厳しい状況でした。その点を踏まえ

慎重に検討を重ねた上、募集定員の一部変更を行います。

2/1A日程30→40名
2/3C日程40→30名

またA日程午後入試の集合時間を14時50分とし、ゆとりをもつて本会場に集まるように致しました。本番当日は、補助生徒の全面的な協力を仰ぎながら、緊張している受験生一人一人を大切にお迎えし「より添いと励まし」を大切にした入試を心がけていきたいと考えます。今後とも、広報活動へのご理解とご協力のほどお願い申し上げます。

中学入試 応募者数・受験者数の推移

	応募者数	受験者数
2010年度	551	372
2011年度	806	536
2012年度	929	642

2012年中学入試・各日程の結果集計

	出願	受験	合格	実入学
2/1A	325	312	170	39
2/2B	219	146	65	40
2/3C	188	95	47	37
2/4D	197	89	20	15
合計	929	642	302	131

欠席者の中には本校に複数回出願され合格以後の試験については自動的に欠席となる受験生も多数に及びます。

今年度中学1年生の総数

	男子	女子	合計
内部進学生	31	47	78
外部進学生	77	54	131
今年度中1	108	101	209

国境・民族・人種の壁を乗り越えて！ 真に豊かなグローバル社会の構築を目指す！

国際教育委員会 荒木伸浩

8月27日の日経新聞に興味深い記事が掲載されていた。タイトルは『海外名門大に進学を 待てぬ大
学改革 有名高校、米へ視察』である。

「日本のトップ進学校が国内の難関大学だけでなく、海外名門校に卒業生を送り出すことで、日本のグローバル人材育成は大きく変わる」というコンセプトで、日本国際交流振興会が国内の有力高校を対象に米国の名門大学の入学選抜制度の視察旅行を実施した。

「参加したのは、渋谷教育学園幕張高校や逗子開成高校など19高校の校長や教頭、進路指導教員など20人。東京大学合格者数の上位常連校も加わった。訪問先は、ハーバード大、マサチューセッツ工科大、カリフォルニア大バークレー校、スタンフォード大、アマースト大、スミス大の6校」

「米国の大学では、入学者選抜はアドミッションオフィスが責任を持つ。例えば、ハーバード大のアドミッションオフィスには、弁護士を含む専門スタッフが30人いる。何ヶ月もかけて志願者一人ひとりの願書や小論文、高校の推薦状、共通テストのスコアなどを読み込み、個別面接を経て選考し、最後はアドミッションオフィ

ス審査委員会が可否を決める」

「彼らが求めるのは、特定分野でのずば抜けた才能の持ち主や、抜き選んだ総合力(独自性リーダーシップ・学力・課外活動)の持ち主であり、学習意欲が高く、周囲の学生に刺激を与え、大学や社会へ貢献が期待出来る個性豊かな生徒だ」



オーストラリアセミナー

現代という時代は、言うまでもなく、急速にグローバル化が進行している。確かに、これによつて社会は大きく発展した。一方で、これがもたらす弊害もある。いずれにせよ、私達が、このグローバル化し続けている現代社会の中で生きていくということは、まぎれもない事実である。

世界には様々な人々が暮らし、そこには、様々な生活様式や考え方が存在すること。それまで自分が抱いていた『常識』は国が変われば『奇妙な価値観』にもなり得ること。外国人に対する偏見やゆがんだ見方に影響されずに、世界の人々と手をたずさえていくことの素晴らしさなどを若い子ども達が体感出来る場を積極的に提供することが、21世紀の学校教育に課せられた重要な任務の一つだと考える。



韓国英語村ツアー

こうしたコンセプトにたつて、湘南学園中高では、子ども達が積極的に海外の人々と触れ合う機会を持つようにするために、韓国・中国・カナダ・オーストラリア・イギリスの5ヶ国との交流を進めている。本年度夏休みには、従来のカナダセミナーとオーストラリアセミナーに加えて、中！

『アー』を実施した。このツアーは、韓国政府が国家戦略の重要な柱の一つとして、子ども達の英語力引き上げを目指して建設した『韓国英語村』での英会話学習に取り組むものだが、この英会話学習に加えて、ここと同じように英語を学びに来ている韓国の子ども達と触れ合えるということもこのツアーの大きな魅力だ。

オーストラリア・ノックス校への2ヶ月留学制度については、わずか7ヶ月間に4名の生徒を送り出し、順調なスタートを切ることが出来た。3月には、英国・中国・韓国へのセミナーが予定されている。

また、本年度は、日中国交回復40周年で、日中国民交流推進年に指定されている。こうしたビックイヤーに、藤沢市の姉妹都市である中国雲南省昆明市から、日本を愛し日本語を日夜真剣に学ぶ真面目で親孝行な学生8名を2月に湘南学園に招くことが決まった。同窓会から、この企画への多額の寄付を戴くことができ、ここの湘南学園で、学園生と中国の学生との交流が実現する。

世界的規模での人類の幸福をいかに考え、二国だけの利益にとらわれず、へ全世界に生きる様々な人々と、国境・民族・人種の壁を乗り越えて、英知を寄せ合うことが出来るか。こうした視点を子ども達に身に付けて欲しいと願う。そして、近い将来、湘南学園からも米国のトップ大学へ進学し、国際舞台で活躍出来る人材を輩出したいと思う。

【小学校竣工式を挙行】

学園は、平成22年3月から着工しておりました小学校校舎改築工事が完了し、8月28日（大安）11時30分から約2時間に亘り、新体育館を式場にして竣工式を行いました。竣工式に際し、神奈川県知事並びに藤沢市長から祝電を頂戴いたしました。



また、来賓として神奈川県学事振興課長、私学共済事業団融資部長、教育環境研究所所長代理、学園OBの県・市議会議員、近隣幼稚園園長、六自治会会長、近隣住民、元役員、元小学校校長、設計者である（株）日本設計から副社

長以下各役員、施工者である清水建設（株）横浜支店から支店長以下各役員等多数のご臨席を賜り、学園からは法人役員、各小学校校長・教頭・企画委員等が出席し、新校舎の堅牢と小学校の発展を祈念致しました。

式典は、先ず神事が執り行われ、玉串奉奠の儀は、建築主として辻理事長が、来賓代表として、小学校改築工事の計画を推進した当時の学園長藤岡貞彦氏が行いました。



神事に引き続き、出席者を3グループに分け、小学校校長・教頭・

総務入試広報主任が引率して校舎見学を行い、他に類を見ないような斬新な設計と構造が自慢の校舎として生まれ変わった姿をお披露目することができました。校舎だけでなく校庭、外溝、植栽等ここで学び遊ぶ児童にとってはこの上ない教育環境と言えましょう。なお、体育館棟は屋上に25メートル5コースのプールを備えており、中高と共同使用されます。



祝宴は、建築主である理事長の挨拶に始まり、学事振興課長小坂橋聡士様並びに私学共済事業団融資部長熊谷賢次様から来賓祝辞を頂戴致しました。引き続き学校法人から、（株）日本設計と清水建設（株）横浜支店に感謝状が贈呈され、受賞者からそれぞれご挨拶

を頂きました。

乾杯は同窓会長の渡邊和彦様にご発声をお願いし、その後しばらくの間歓談となり、新校舎の話題に花が咲きました。



祝宴も大詰めを迎え、斉木小学校長から感謝と抱負の挨拶が述べられ、神奈川県知事及び藤沢市長から頂いた祝電の披露と続き、最後に仲本学園長による手締めで祝宴がお開きとなりました。

ご出席いただいたご来賓の皆様には心からの感謝と今後のご指導ご厚誼をお願いするとともに、この竣工式を機に学園全体が更なる発展を遂げるよう決意を新たにします。

学校法人から

【松ぼっくり募金に感謝】

湘南学園創立80周年を記念して松ぼっくり募金を各方面にお願い致しましたところ、次の個人・法人の方々からご寄付を頂戴し、7月31日現在で特別寄付は目標額五千万円のところ三千二百万円に、一般寄付は目標額五千万円のところ千四百二十九万三千円に達しておりますのでご紹介致します(掲載はスペースの関係上、ご芳名又は法人名のみとし、敬称は省略させていただきます)。

【特別寄付(教育振興基金等)】

森 稔・関家憲一・山下耕平

【一般寄付

(80周年記念館建設資金)】

(個人) (50音順)

・相田恵美子・青木香那子・青木泰雄
・青木佳朗・青柳真帆・赤井 格
・赤坂 一・暁山昌幸・赤星福子
・秋元良太・秋山 淳・朝倉康之
・朝倉 實・朝田一紀・浅田順一
・浅田初江・愛宕奈津美・穴山雄一
・新井澄子・荒木伸浩・有蘭和子
・安斎 隆・安西洋幸・飯島隆史

・飯島典光・飯田智一・飯塚高司
・飯塚たみ枝・飯山禮文・五十嵐修
・五十嵐竹虎・五十嵐由枝子・五十嵐章太郎
・池仁 浩・池田政克・伊澤善夫
・石井克幸・石井孝雄・石井千恵
・石井文二朗・石井康子・石井利香
・石垣文緒・石川樹一・石倉英治
・石沢直孝・石島忠章・石田秀樹
・石橋洋子・石原幸夫・井島 宏
・石渡利光・井関琢哉・磯部博樹
・市川寿美江・市川秀樹・伊藤勝弘
・伊藤真哉・伊藤 等・伊藤恵三
・稲永朝彦・井上輝彦・伊野和也
・井原康秀・今村好一・岩井耀一郎
・岩井佳子・岩崎希名・岩崎行恒
・岩田 保・岩田和子・岩田富貴子
・植田治久・上田正巳・上原由起夫
・植松英世・上村裕介・氏家英男
・牛込二郎・牛込雅子・臼井 章
・宇田隆悦・内山伊史・内海藤夫
・梅屋和人・羽毛田裕・浦田智禎
・浦田雛子・江上尚良・江頭宏亮
・榎本 理・榎本トミ・遠藤光衛
・大石暢彦・大井友子・大内康行
・大久保理子・大越 保・大島智晃
・大島幸雄・大高基子・大竹弘子
・大貫文詠・大野圭介・大平英子
・大森信久・大脇英司・大脇玲子
・緒方哲也・岡田尚志・岡野幹樹
・岡部知花・岡部知憲・岡部 稔
・岡村和彦・小川和恵・小川達也
・小川 博・小川喜由・奥嶋 勇
・奥野浩一・小澤明彦・小澤幸喜
・小澤春美・小田英司・小田 慧

・鬼澤美知子・尾上良平・小野大祐
・小幡径行・小原万宗・小原美佐江
・尾原美和・小俣尚斗・織田よしこ
・海津千鶴子・加賀美公二・鹿兒島豊
・柏木榮三郎・柏木賢志・片寄真司
・勝田 誠・勝又敬子・加藤 明
・加藤太一・加藤次克・加藤 怜
・門脇道比古・金澤基彦・金子 晋
・金田勝俊・金安晃裕・金指義機
・加茂哲哉・川井登喜子・川喜多健二
・川瀬啓子・川瀬 忍・川瀬 順
・川手由里子・河野一郎・河野奈穂子
・川之辺繁・川村光子・河本浩一
・川本 透・河本洋子・菅 英雅
・神戸和男・神戸洋一・岸 郁夫
・北川洋子・北村和美・北村 武
・橘川 聡・鬼頭 靖・木船 剛
・君塚郁夫・木村香里・木村修司
・木村 奨・木村知恵子・木村陽一郎
・久家貴子・工藤陽子・國方美沙子
・窪田真行・久保憲子・桑百合子
・黒川不二子・黒田高弘・桑原一茂
・小池俊介・小池春子・小泉江都子
・小泉光一郎・小出武男・木暮欣正
・小暮隆司・木暮晴美・腰越 明
・小柴裕太郎・児島弘樹・小菅徳男
・小谷美和・兒玉達樹・後藤康太
・小西美子・小林大介・五味陸明
・小屋敷俊郎・小山隆史・金剛寺謙
・近藤昭子・近藤正隆・近内俊介
・斉木 修・斉藤章二・齋藤 隆
・齋藤まり江・佐伯佳奈子・酒井晋一郎
・酒井康光・酒井 亮・榊原康之
・坂田泰治・坂田瑞宜・坂野泰央

・坂巻幸宣・坂本義次・佐々木健
・佐々木敏子・佐々木弘男・佐々木浩
・佐々木昌巳・雑賀壽和・佐藤彰雄
・佐藤昭範・佐藤栄子・佐藤和子
・佐藤公俊・佐藤 忠・佐藤達郎
・佐藤たゑ子・佐藤 努・佐藤治子
・佐藤 允・佐藤美保・佐藤裕子
・佐取 徹・佐野達頼・サリ忠紀子
・澤田康斗・澤村明男・澤村有希
・幸加木茂夫・塩入義和・塩沢幸一
・塩路直樹・實方晴通・實方 一元
・篠塚裕子・渋谷勝美・清水 暁
・清水直哉・清水 暢・下澤晴子
・白井智子・神 英幹・秦 和之
・秦 浩一・神保佳奈・杉原正哉
・杉本 敬・杉山恵一・鈴木啓三朗
・鈴木健次・鈴木千尋・鈴木 努
・鈴木哲夫・鈴木智洋・鈴木直人
・鈴木伸子・鈴木雅子・鈴木美智子
・鈴木康男・鈴木靖彦・鈴木利健
・砂川仁良・関川正博・関田俊明
・関根善郎・関野有司・仙波安雄
・空本善孝・平良弘之・田尾 登
・高木 透・高木晴久・高倉 香
・高島多香子・高島忠夫・高嶋 浩
・高島義治・高田耕太郎・高梨由佳里
・高橋一壽・高橋慎司・高橋博樹
・高橋文夫・高橋正樹・高松利寛
・田川 剛・武市 信・竹田恵子
・武田博之・多田直樹・館内祐樹
・伊達靖子・田中秋乃・田中明彦
・田中淳一・田中隆之・田中夏樹
・田中道子・田中 盛・田中義教
・田中四良・田辺真理・田端恭蔵

・田畠久義・田村典正・田村舞里菜
 ・千種浩司・塚原 仁・辻 彰彦
 ・辻 好樹・津田小百合・津田悠子
 ・土屋牧雄・常松忠宏・鶴岡 仁
 ・鶴田 順・鶴野剛士・寺田 友
 ・出羽 仁・出羽弥生・常盤敬之
 ・栃澤かおり・戸塚 仁・戸畑秀夫
 ・富田和史・富田起代子・富田靖子
 ・富永麻由子・友田義輔・友野庄平
 ・豊嶋 毅・豊竹正幸・豊村信夫
 ・内藤知彦・内藤喜嗣・永井公夫
 ・永井洋佑・永井礼正・中川貴義
 ・中河原怜子・永島 謙・長嶋敏幸
 ・長瀬輝行・永田健夫・中西健次郎
 ・永納俊一・長野 正・永野幹晴
 ・中林三平・永原真弓・中部謙一郎
 ・永堀通男・中村あい子・中村絵里子
 ・中村 健・中村健一・中村 新
 ・中村忠男・中村美恵・仲本正夫
 ・中山優子・永吉寛行・梨本加菜
 ・並木友香・成田哲郎・成勢敏彦
 ・南田美加・新倉賀奈・新関陽一
 ・西倉秀樹・西塚 至・西野雅雄
 ・西村麻子・西村 潔・新田貴代
 ・布戸倭介・根本勇司・野口る美
 ・橋田嘉紀・橋本義弘・端山教一
 ・長谷川麻彌・長谷川徳之・長谷川浩子
 ・長谷川元保・長谷川雄自・服部瑛一
 ・早坂 淳・林 愛三・林 倫仁
 ・林 美和・葉山英子・葉山淑人
 ・葉山新一・原 力哉・原 俊昭
 ・原 信之・春木美和・足田光徳
 ・樋口秀之・樋口真弘・樋口 弓
 ・久野 亮・久本道之・日向一郎

・姫野貴美子・日向野弘・平井真紀夫
 ・平岩良允・平岡太郎・平田 茂
 ・平野公久・平野哲章・平野光紗
 ・平野雅己・平山高司・廣川勝子
 ・広瀬 繁・フォーリーメン・フクシマ麻季
 ・福田泰幸・福地美沙子・藤井和之
 ・藤沢純郎・藤田さつき・藤田浩之
 ・藤野和夫・藤村謙一郎・藤村泰一
 ・船坂孝志・古川昌博・古田優子
 ・別府倫兄・芳土吉治義・星野芳秀
 ・細川嘉文・保多 洋・堀田知佳
 ・堀田鉄男・堀 司・堀内克彦
 ・堀江耕太郎・堀口 昭・本郷 了
 ・本多通宏・前川 出・前川貴宏
 ・前嶋 清・前田晃美・榎 薫
 ・増田和彦・舛田博之・松浦 章
 ・松浦 収・松浦雄介・松下俊雅
 ・松下マリ子・松田聡美・松田博之
 ・松田曉史・松野雅幸・松橋正三
 ・松村玲子・松本三津子・松本秀一
 ・松本英昭・松本里恵・間宮政信
 ・丸田哲也・三浦 浩・三上順子
 ・美河正浩・三島啓輔・三島悠輔
 ・水落かすみ・水越 靖・水野久世
 ・三谷久也・三谷長秀・三田村欣彦
 ・峰岸祥子・簗 豊・箕輪ゆか
 ・宮川哲弥・宮川智幸・三宅裕之
 ・宮津大輔・宮村節子・宮本太郎
 ・宮崎祐誠・三好 泉・向井 勲
 ・村田文夫・森 望・森田俊一
 ・森田智恵子・森千恵子・柳下誠一
 ・保岡弘之・安嶋明日香・谷中史弘
 ・柳田敏雄・矢部洋三・山浦真一
 ・山岸 大・山岸成昭・山口欽三

・山口古英・山口正孝・山口正隆
 ・山口元子・山口恵三・山崎仁子
 ・山崎裕香・山下 恵・山室常光
 ・山科章子・山田明彦・山田剛資
 ・山田涼子・山室佐知子・山本邦生
 ・山本賢二・山本武史・山本照雄
 ・山本康雄・横井容子・横田信一
 ・吉川裕貴・吉瀬右子・吉田彩希
 ・吉田清人・吉田新一・吉田昌弘
 ・吉田洋一・吉野俊明・和田 徹
 ・渡邊和彦・渡辺啓子・渡辺 衿
 ・渡部保日児・和田みゆき
 ・その他匿名希望5名

〔法人〕(50音順)
 (株) 朝日工業社
 (株) アルファ映像
 (株) 一幸堂
 (株) 江ノ電バス藤沢
 (有) おおさと
 (株) 屋外体育
 (有) キタジマススポーツ
 久津間製粉(株)
 K&G 齒科
 公安警備保障(株)
 (株) こどものとも横浜営業所
 (株) シービーエス
 (株) ジャクエツ
 (株) 湘 学
 (株) 湘南インシユアランス
 湖南造園(株)
 総合警備保障(株)

(株) 総合写真
 総合商事(株)
 (株) 大春工務店
 (株) 田中保険事務所
 東京私鉄広告(株)
 トップツアー(株) 横浜支店
 (有) 豊元書店
 (株) ノトス・ライブ
 (株) パイニイ
 (株) 富士通ワイエフシー
 ふじ乃寿司
 (株) 富士屋
 (株) 文盛堂
 (株) 丸 定
 (株) 横浜銀行
 理想科学工業(株)

募金に賛同して頂きました個人・法人の皆様は学園一同心から感謝申し上げますとともに、80周年記念事業を成功させ、さらなる発展に向けて邁進する所存でございます。なお、平成26年3月まで募金を継続しておりますので、今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

【お問い合わせ先】
 湘南学園創立80周年記念
 「松ぼっくり募金」事務局
 電話0466-23-6611(代)